流通とＳＣ・私の視点

2020 年４月４日

視点(2334)　コロナショックの未曾有の現象と経済や流通のノーマル(平常)の大変化!!

（流通経済編）

新型コロナウイルスの感染拡大（コロナショック）は未曾有の社会的現象であり、コロナショックが終息後も「前と後」には経済や流通や消費に大きな変革が起こります。いわゆる、今までの「ノーマル」（正常・標準）が変わり、“前”から見るとアブノーマル化現象が起こります。

過去の未曾有の社会現象の内容をその変化を解明すると次の通りです。

		年次	年代	出来事	その“後”のノーマル化現象
アメリカ	ニクソンショック	1971 年	1970～1992 年	•アメリカのモノ離れ現象(1970 年) •ドルの金本位制の廃止(1971 年)	•モノ離れによる不景気と金融経済によるインフレが融合したスタグフレーション化が進展 •金融経済社会へ突入
	エンロン事件	2001 年	1993～2001 年	•IT(ICT)のIPO(新株発行) •ITバブルとバブルの崩壊	•ドットコムバブルの崩壊と真正ICT企業の躍進 •インターネットによるデジタル経済社会へ突入
	リーマンショック	2008 年	2002～2008 年	•住宅(不動産)のデリバティブ化 •ファンドバブルとバブルの崩壊	•リーマンショックによる景気の後退に対して、アメリカ・中国が超金融緩和 •金融緩和による資産バブル(株式・債券・不動産の高騰)が起こり、金融が世界経済を牽引
日本	日本式バブル崩壊	1991 年	1980～1991 年	•日本のモノ離れ現象(1988 年) •株式・不動産バブルとバブルの崩壊 •プラザ合意による円高誘導	•モノ離れによる小売業の減少と企業及び家庭の節約志向 •デフレ経済により 20 年以上GDPは向上せず、かつ超金融緩和による資産インフレ
中国	サーズ流行	2003 年	2003 年	•サーズの中国から世界へ感染拡大 •人の流れ(人流)の制限	•人的交流の制限でネット通販が成長 •アリババ集団や京東集団のネット企業が躍進
世界	コロナショック	2020 年	2020 年	•新型コロナウイルスの感染拡大 •人の流れ(人流)の大制限 •リーマンショック以上の経済悪影響 •需要と供給の両面からの影響大	•日本では流通大変革の時期とコロナショックが一体化して、次世代流通社会へ急激に進化する。

未曾有の出来事の“前”と“後”は大きく社会・経済・流通・消費の景色が一変することが起こります。

コロナショックの“後”の現象を消費の面から見ると次の通りです。

①前と後は「前に**Ｖ字回復**する消費」と「前の**半分返し**する消費」と「前に戻らず**消滅する**消費」があります。

②流通に大きな影響を与える消費は全て消えてしまう**「蒸発消費」**と家庭内や近場で済ませたい**「巣ごもり消費」**と今までの生活習慣スタイルを省エネ化した**「冬ごもり消費」**が起こります。

③逆に、コロナショックによるライフスタイルの変化によってピンチがチャンスになる**「飛躍消費」**も起こります。

結論的に言いますと、流通の 25 年大変革説（1970 年の第１次流通大変革、1995 年の第２次流通大変革、2020 年の第３次流通大変革）のコンテンツと同じ方向に進み、コロナショックは 2020 年から 2045 年までの **25 年間に起こる流通のキーポイントを 10～15 年加速**させる要因になります。

また、コロナショックは次世代に対応できない**伝統的業態の陳腐化が 10 年早まる**ことが想定されます。

(株)ダイナミックマーケティング社[+7]

代　表　六　車　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2020 All rights reserved.